学校だより
中山小
中山小学校は創立131年目を迎えました
”夢をかたちにこころひとつに大好き中山っ子”
横浜市立中山小学校
令和５年　４月２７日　発行
５月号
学校教育目標：豊かなかかわりの中で「生きる力」を身につけます

これからの時代の新しい学力・教育観　～一人一人の伸びを大切に～

校長　　吉田　茂樹

先日は、授業参観・懇談会、個人面談に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。今年度は、４月から通常のスタートが切れ、保護者の皆様にも子どもの様子を見ていただいたり、担任との共通理解を図っていただいたりする時間が早めにとれて良かったです。

新学期から２週間が経ち、子どもたちは、新しい学級・学年に慣れてきたところで、朝も元気いっぱいに挨拶をする子が増えています。また、１年生は、学校給食に慣れ、「おいしい！」「野菜も全部食べた！とモリモリ食べています。皆、お行儀が良くて感心です。避難訓練も約束を守って、とても上手にできました。高学年は、早速、登校班で下級生を優しくリードしたり、「１年生を迎える会」を企画・運営したりして頼もしい存在になっています。これから、縦割り活動が本格的に始動し、全校縦割り遠足も５月２６日に予定しています。学年を超えて子どもたちが仲良しになり、楽しく安心な学校生活につながることを期待しています。

さて、現在の学習指導要領も既に５年が経ち、次の改訂に向けて動き始めています。その中で特に「子どもたちの学びを一人一台の情報端末を前提とした学びにどう転換していくか」ということが求められています。本校でも一人一台のタブレットを「個別最適化の学び」や「コミュニケーション」のツールとして効果的な活用を推進しています。

また、先日、配布しました「新しい横浜市学力・学習状況調査」のリーフレットで示されていますように、これからは、市や学校の「平均」と比べて学力を測るのではなく、一人一人に応じた「学力レベル」の「伸び」を見ていくことが大切になってきます。そして、それぞれの伸び、努力の様子、課題などを学校と家庭で共有し、授業や家庭学習に生かしていくことが子ども一人一人のステップアップにつながっていきます。

さらに、社会情動的コンピテンシー（非認知能力で、意欲・粘り強さ・好奇心など数値で測れない感情や心の働きにかかわる能力）が重要になっています。OECDでは、「目標を達成する力」「他者と協働する力」「情動を制御する力」として一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響を与える個人の能力と示されています。本校でも重点研究として、一人一人の学びに向かう姿勢や意欲の状況を定期的に児童アンケート等で検証し、指導・支援に生かしてく計画です。

間もなくゴールデンウィークを迎えますが、交通事故には、くれぐれも気を付けてほしいと思います。歩行者優先、横断時の一時停止・確認など御家庭でも自分も周りの命も守る安全について話し合っていただければ幸いです。